テーマ：縄文遺跡群（実践校）

日高管内　浦河町立荻伏中学校

■本実践のポイント（概要）

・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、社会科の授業において、北海道の縄文遺跡群や浦河町の遺跡について調べるとともに、収集した情報をもとに、学級で話合いや発表等を通して、身近にある縄文遺跡の特色や自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①単元の目標

縄文時代について、特色や生まれ育った地域との関連性について調べる活動を通して、当時の人々の生活や文化について理解を深めるとともに、得た情報を整理・分析しながら、縄文遺跡群と地域の関わりについて主体的に考え、調べた内容について、関心をもって発言ができるようにする。

②取組の様子

（1）課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、社会科の歴史的分野で学習した知識をもとに、北海道と北東北の縄文遺跡群が、なぜ世界文化遺産に認定されたのかなどの探究課題を設定しました。

【1人1台端末を活用した交流・協議の様子】

（2）情報の収集

１人１台端末を活用し、北海道内の縄文遺跡群の分布や世界文化遺産に認定されるまでの経緯等、縄文遺跡群の現状について情報を収集しました。

（3）整理・分析

１人１台端末を活用し、個人で収集した情報を、グループで交流・協議し、ワークシートにまとめる学習活動により、縄文遺跡群の特色や自分たちの生活との関わりについて理解を深めました。

（4）まとめ・表現

個人で調べたことを、ワークシートにまとめて発表し合う学習活動を通して、北海道内の縄文遺跡群について、社会科の歴史的分野の既習事項と結び付け理解を深めるとともに、身近にある縄文遺跡群と自分たちの生活との関わりについて考えることができました。

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

・一人一人が主体的に学習活動に取り組むことができるよう、取り組む課題を明らかにした上で、１人１台端末や教科書を活用し、個人で情報収集に取り組む場面を位置付けました。

・課題解決に向けた方向性を明確にすることができるよう、収集した情報をグループで共有し、まとめる際の新たな視点に気が付くことができるよう、交流する活動を設定しました。

■実践の振り返り

・生徒自身が社会科で学んだ知識をもとに、自ら身近にある縄文遺跡群と生活との関わりについて課題を設定し、探究的に学習を進めたことにより、縄文遺跡群に対する興味・関心を高めながら、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。

・「ふるさとに対して問いを発し、ふるさとで活躍する人々と出会いながら、自分が思っていることを伝えたり、話し合って新たな視点を見出したりする」という学習活動を各教科に意図的、計画的に位置付けることにより、ふるさとに対する愛着や誇りを一層育むことが期待できます。